

## 平成 26 年度ふくしま保育元気アップ緊急支援事業 相談支援者育成研修フォローアップ研修会に関する評価<sup>1</sup>

当該研究において実施する保育士研修について、実施の状況、意見のまとめ等を参照すると共に、事後アンケート、参加者に対する事後インタビュー調査を実施し、その有効性を評価する。

### 1) 評価対象の研修会

名称：ふくしま保育元気アップ緊急支援事業 相談支援者育成研修フォローアップ研修会  
(以降、単に「フォローアップ研修会」と記す)

日時：2015 年 1 月 22 日(木) 10:30～15:30

場所：ビッグパレット福島

主催：福島県保健福祉部子育て支援課および厚生労働科学研究費補助金 特別研究事業「原子力災害からの回復期における住民の健康を支える保健医療福祉関係職種への継続的な支援に関する研究」班

### 2) 事後アンケートの整理

フォローアップ研修会では、最後にアンケート記入の時間を取ってあった。ここでは、そのアンケート(事後アンケート)の結果を整理する。

アンケートでは、表 6 のような質問項目が含まれている。

表 6 事後アンケートに含まれる質問項目

Q1 勤務先の地域
Q2 性別
Q3 年代
Q4 保育所等の種別
Q5 研修内容について
資料(5件法:「わかりにくかった」「わかりやすかった」)
講義内容(5件法:「わかりにくかった」「わかりやすかった」)
時間(5件法:「十分でなかった」「十分であった」)
質疑応答(5件法:「十分でなかった」「十分であった」)

<sup>1</sup> 本資料の作成は特定非営利活動法人 パブリックアウトリーチによる。

今後の活用（5件法：「役に立たない」「役に立つ」）
SQ5-1 わかりにくかったことについて（自由記述）
SQ5-2 わかりにくかったことについての理由（自由記述）
Q6 自由記述

ここでは、Q5 以降について、結果を整理していく。

Q5 の集計結果は、表 7 のようになる。

表 7 Q5 の集計結果

資料	わかりにくかった				わかりやすかった
N=19	1 5.3%	4 21.1%	3 15.8%	6 31.6%	5 26.3%
講義内容	わかりにくかった				わかりやすかった
N=19	1 5.3%	3 15.8%	9 47.4%	3 15.8%	3 15.8%
時間	十分でなかった				十分であった
N=19	1 5.3%	4 21.1%	11 57.9%	2 10.5%	1 5.3%
質疑応答	十分でなかった				十分であった
N=18 (無回答 1)	0 0.0%	5 26.3%	10 52.6%	1 5.3%	1 5.3%
今後の活用	役に立たない				役に立つ
N=19	0 0.0%	1 5.3%	9 47.4%	4 21.1%	5 26.3%

用意された資料については、半数以上がわかりやすいと評価している。また、講義の内容に関しては、どちらかといえばわかりやすいという評価だと思われる。

一方、研修会の時間や質疑応答に関しては、中間意見が半数を占め、どちらかといえば十分ないという評価であった。

全体としては、半数程度が今後の活用に対して役に立つという評価をしている。

SQ5-1 および SQ5-2 では、Q5 を受けて、自由記述の設定である。自由記述の内容は表 8 に整理した。

表 8 SQ5-1 および SQ5-2 の回答

〔講義内容（進行を含む）に係わること〕

- 司会の先生と他の先生方の意思統一がなされていないためか、研修の内容があまり進まず、本当に必要なことを学ぶ時間が少なく残念に思いました。専門の先生方がたくさんいらしていたのに、お話が聞けず残念でした。パネリストとして講師の先生方が前に出てきていただき、私たち保育士が質問するという形式のほうがよかったと思う。一方的に「聞く」時間が長く、もっと知りたいことがあった。
- 他の多くの園の取り組みをもっと長い時間聞きたかったです。他の多くの園との情報交換の時間・グループワークの時間を長く取っていただけると、互いに情報交換（現場同士の）できたと思います。放射線災害後の取り組みというテーマで他園と話し合いを持つことのできる貴重な場なので。
- 研修の内容よりも、内容に対する専門的な意見が多々あり、何をどのように聞けばよいか戸惑うことが多かった。
- 数値や統計での説明は、専門でないので、難しかったです。

〔今後の活用（要望を含む）に係わること〕

- 数値が提示されても、収穫物や散歩、外遊びなどへの影響がよく分かりませんでした。保護者への説明や対応（安心できるような）、保育所側の対応など、何が必要かもっと単純に教えていただければと思いました。事前課題の説明では、数字を提示されても納得するのが難しかった。
- 土の入れ替え、外遊びの時間制限、自然物を取り入れた活動など、正解はないとのこと。  
 なのか、×なのか？ はっきりした答えがほしかった。そして、保護者の理解を得られるような説明の仕方を具体的に教えてほしかった。
- 内容を煮詰めてからの研修だとよいかと思いました。対人間なので、科学的データのみでは解決できないこともあります。
- データは大切だと思うが、それだけでは知識として活用していくのは難しいと思います。具体例などをもっと多く示していただけたほうが、参考になったと思います。対応はケースバイケースだと思います。たくさんの事例を聞くことで、参考にしていきたいと思えます。

これを見ると、まず、フォローアップ研修会の進行に絡んだ意見が見られることがわかる。「事前課題の解説」について、講師間での話し合いに終始してしまい、参加者が置き去りになってしまったことが指摘されている。また、「事前課題の解説」に多くの時間を取られ、その後の「グループワーク」の時間があまりとれなかったことについて、参加者同士の情報交換を期待していたという意見も挙げられた。

次に、内容に関する大きな要望は「実際の活動に役に立つこと」を知りたかった、ということである。保育所の実際の活動や、保護者に対して、どのように対応していけばよいのかについて、ケーススタディを具体的に知りたいという意見が聞かれる。科学的数値だけでは、このような実際の課題には対応できないと言う。

そのような意味でも、グループワークの時間が減ってしまったことは、評価を低くしてしまうことにつながるようだ。

表9 Q6 の回答のうち、改善提案を含むもの

<p>〔研修会のプログラムに係わる意見〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 事前課題の説明は、もっと山口先生や他の講師の方々の話を聞きたかったのですが、一講師の方の独演会のように感じて、少し残念でした。みんなの研修会だったので、参加のマナーに欠けているようにさえ思いました。</li> <li>• 研修参加者との質疑がもう少しあるとよかった。まず私たちが理解し、アクションを起こしていく。汚された感、被害者意識があるから限りなくゼロにしたいと思ってしまう。そこからの脱却を再認識しました。</li> <li>• グループワークの時間が短く、他園の意見をもう少し詳しく聞きたかった。講師の方に入ってもらいとても勉強になった。</li> <li>• フォローアップ研修として、今年度の取り組みを他園の方々ともっと話したかったです。実際の現場で、どのような問題や不安があるかなど共有できればよかった。</li> <li>• グループワークの時間が有意義でした。もう少し長い時間があればよかったです。</li> <li>• 元気アップ事業に関わる職員が研修に参加していますので、できれば具体的な保護者からの相談事例を挙げて、「伝え方」の練習などをしていく内容があれば、とても役立つと思います。</li> <li>• もしこういう主旨の研修会でしたら、内容検討をお願いしたいと思います。</li> </ul>
<p>〔講師の回答内容に係わる意見〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 堀口先生がリスク比較にはならないので成田 NY（往復）やCTなどでの線量よりも子供に身近なPM2.5や紫外線の量のほうがよいと言っていたが、原発事故があった「福島」に住む子供たちの保護者には、他のリスクよりも子供たちと放射線との関係が一番気になり心配なところだと思うので、やはり私たちの生活の中にある放射線に関することが示されたほうが分かりやすいと思う。（他のリスクについても関心はあると思うが）</li> </ul>

表9には、Q6 の回答から、フォローアップ研修会への改善案を含むものを取り出した。

SQ5-1 や 5-2 にも関連するように、「事前課題の解説」については、その進行の方法（ファシリテーション、講師と参加者の会話のあり方）についての意見が見られる。

また、グループワークを期待していた参加者は多い。参加者同士の情報交換もさることながら、講師と直接話せることが良いポイントであるようだ。このグループワークはもっと時間を取って欲しいとの要望が挙げられた。

その他、具体的な事例紹介や、より実践的な内容を望む意見も見られる。

表 10 には、Q6 の回答から参加者の感想に当たるものを整理している。これを見ると、具体的な事例に関する内容や、グループワークによる参加者間や講師との情報交換を望む意見が見られることがわかる。

最後に、フォローアップ研修会を通じて、参加者自身の今後の活動をより発展させるように意思表示をしている意見も見られ、研修会が参加者にとって有用なものであったと言えるだろう。

表 10 Q6 の回答のうち、感想に当たるもの

<p>〔研修会のプログラムに係わる感想〕</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• あすなる保育園の取り組み、とても参考になりました。ありがとうございました。</li><li>• 昼食時の講師の方との交流やグループ会議は実りあるよい時間でした。今の福島の状態に合った内容だったと思いました。</li><li>• グループワークでは各保育所の情報を共有することができ、大変よかったです。</li><li>• グループワークの時間に同じテーブルに入ってくださった専門家の先生の話が具体的でも分かりやすかったです。他の園さんも同じことで悩んだりしていることを知り、今後、他の園さんとも連絡を取り合えるようにしていきたいと思いました。ありがとうございました。</li></ul>
<p>〔参加者自身の意思表示〕</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 放射能について、これから自分なりに向き合っていきながら知識として（基礎知識）学んでいくことが大切だと思いました。ありがとうございました。</li><li>• フォローアップ研修会も回を重ねているので、放射能についての知識も学ぶことができます。保育所に持ち帰り、他の職員にも伝えていきます。</li><li>• まだまだ多くの問題が残っていることを再認識できました。</li><li>• 自分の立ち位置、現在の園の状況と再度見直していきます。</li></ul>

### 3) 事後インタビュー（参加者）による評価

評価にあたり、フォローアップ研修会参加者にインタビューを行った。概要は以下の通りである。

日 時：2015年3月6日 10:00～11:00

場 所：保育所内（福島県内）

対象者：保育所職員1名（女性1名）

実施者：木村・丸山（パブリック・アウトリーチ）

備 考：使用したインタビューガイドについては、図3を参照

### 保育士研修の有効性に関するインタビュー

日 時：2015年3月6日 10時～11時

場 所：[REDACTED]

実施者：木村、丸山（パブリック・アウトリーチ）

対象者：[REDACTED]

目的（仕様書より抜粋）：

「原子力災害からの回復期における住民の健康を支える保健医療福祉関係職種への継続的な支援に関する研究（研究代表者：山口一郎）」において実施する保育士研修について、実施の状況、意見のまとめ等を参照すると共に、事後アンケート、参加者に対する事後インタビュー調査を実施し、その有効性を評価する。

インタビュー内容：

- 1．研修の各ステップを振り返って、良かった点、悪かった点、要望
- 2．研修全体を通して、参加した感想と、役に立った点
- 3．研修の活用について

対象の研修

名称：ふくしま保育元気アップ緊急支援事業相談支援者育成研修フォローアップ研修会

日時：平成 27 年 1 月 22 日（木） 10：30～15：30

場所：ビッグパレット福島

次第：

- 1．開会・あいさつ・オリエンテーション
- 2．保育施設での取り組み事例の紹介：福島市あすなる保育園の取り組み
- 3．スタッフ自己紹介
- 4．事前課題の解説：皆さんからいただいた疑問を一緒に考えます
- 5．グループ・ワーク：お互いに情報交換しましょう
- 6．クロージング：保育スタッフの皆様へのメッセージ
- 7．アンケートへの記入

図3 インタビューガイド

以下にインタビューの結果を示す。

研修会の各ステップを振り返って、良かった点、悪かった点、要望

〔開会・あいさつ・オリエンテーション〕

- 子育て支援課の小川氏の話聞き、震災直後にはこういう問題があって、震災1～2年

後にはこういう問題があって、少し落ち着いてきた今はこういう問題がある、ということが短い時間で把握できた。県の動向が把握できたし、自分たちの取り組みとも足並みが揃っていることを改めて確認することができた。保護者の方に説明する際に役に立つと感じた。

〔保育施設での取り組み事例の紹介〕

- 今回の研修だけでなく、前回の研修でもあすなる保育園の取り組みを聞いたが、様々な努力をされていて、素晴らしいと思った。
  - ただし、当園で同じようなことができるかという、難しい面もある。他園の方も難しいとおっしゃっていた。(スタッフの人数などの課題がある)
- 特に印象に残ったのは、「子供のリスクを最小限に抑えること、保護者が安心できるようにすること(安全であるとは言えない)、放射線量に対する知識を持ち、それを保護者に伝え、正しく怖がることのできるようになること、保護者と協議し、納得した上でできることをひとつずつ増やしていくこと」という言葉である。
  - ただし、「安全であるとは言えない」「正しく怖がること」は、当園では言えないと感じた。それ以外についてはおっしゃる通りだと思う。
  - 保護者の方は不安を持ちながらも福島で子育てを続けている。その気持ちに寄り添い、一緒に考え行動していくことが大切だと感じている。当園の取り組みでは、放射線の何が怖いかを保護者が言葉にできたら、専門家の協力を得て測定を行い、また様々なデータを見せていただき、不安をもつ保護者に見てもらった。数字の見方等も専門家に教えていただき、心理的な面からもサポートしていただくという繰り返しを何度も行ってきた。
  - 当園では、保護者の方に定期的にアンケートを書いていた(アンケートを書くことよって、会話では出てこない話が出てくることがある)。保護者の方は、「全て安全です」と言われると反発したくなるが、「安全でない」と言われると不安になってしまうようだ。
  - 専門家の方をお呼びして、放射線の学習会を何回か開いているが、その際のアンケートに、「自分たちがここで子育てをしていることに自信を持てた」という意見もあった。保護者の方がそういった気持ちになるまでには紆余曲折があったと思うが、そのような気持ちになっていただけて良かったと思う。

〔スタッフ自己紹介〕

- たくさんの先生方がいらして、ありがたいと思った。



- 「なすびの疑問」は、その後スーパーマーケットのカウンターで見かけた。

#### 〔事前課題の解説〕

- 様々な考え方があるということが分かり、勉強になった。
- 各園の状況を理解されていて、その上で判断材料になるデータを示してくださるので、とても助かる。
- 事前課題の解説で提示されたデータに対して、度々コメントをする講師の方がいらした。この研修は、「中通り地域」の「保育士」が対象のはずだが、その目的に沿ったコメントだったかどうかには疑問が残る。その講師の方は、福島にも何度か来られているようだが、地域によって抱えている課題は異なっているので、今後はこのような点も踏まえ検討していただきたい（注釈：講師からは他の地域ではどうなっているかや他の地域からはどう見えるかという観点も持つべきではないかとの指摘があった）。
- 「事前課題の解説」の時間を長く取っていたが、他園の方との情報交換の時間をもう少し増やしていただけるとありがたい。

#### 〔昼食〕

- 他園の方や専門家の方とお話できた。他園の立場や取り組み、そして保護者への対応について情報がほしかったので、役に立った。

#### 〔グループワーク〕

- 認可外の保育施設の方が集まったグループだったが、認可外の施設の間の共通の悩みについて話し合えた。
- 講師との距離が近くなり、直接聞きたいことを聞くことができた。
- 附箋に自分の意見を書いて、同じような意見を集めて、話し合っていく、という方法は良かった。
- グループに入ってくださった講師の方の進行が非常に良かった。最初に講師の方が自分の取り組んでいることを丁寧に説明してくださったので、講師の方の立場がよく分かった。また、質問に対し、ゆっくりと丁寧に説明してくれた。
- 他園の方も同じ疑問・悩みを持っていることが分かった。この研修は、福島県内のやや広い範囲内で、似たような悩みを抱えている方が集まっていて、お互いに何か得られるものがあると思っているからこそ、毎回参加している方がいるのだと思う。似たような悩みを抱えている方たちと話し合うことは、今後の対応を考える上で非常に役に立つ。

- 自分の園の中だけで考えていても、どうしようもならないこともある。近くの園で相談すればよいと言われるが、近くといえどもそれぞれ状況が異なっているので、隣の園と同じ取り組みをすればうまくいくとは限らない。
- もう数値に変化がないということで、ガラスバッジの使用を希望しない方が増えているのだが、それに対して、グループに入られた講師の方が、「あれはお守りなのです。10年後、20年後のために、継続して測ることはいいことなのですよ」とおっしゃっていて、目から鱗が落ちる思いだった。その後、いろいろな人にその言葉を伝えている。

#### 〔クロージング〕

- パワーポイントを用意されていたようだが、時間の関係で口頭のみだったのが少し残念だった。しかし、研修の時間を守ることも大切だと思う。(それぞれの園の事情もあるので)

#### 研修全体を通して、参加した感想と、役に立った点

- このような研修に参加する機会を与えていただき、感謝している。
- 多くの講師の方がいらして、それぞれの立場の考え方を知ることができた。
- 放射線の問題は福島県特有のもので、かつ、現在進行形の問題である。園としてどのように対応していくかを考える上で、大切な研修会だと思っている。今後も継続していただきたい。
- 公立の保育施設の方と認可外の保育施設の方が一堂に会する研修は珍しいので、他園の方の取り組みをもっと聞きたいと思って参加した。情報交換の時間がもう少しほしかった。実際に、グループワークの中で他園の取り組みを聞いて、ためになった。他園の方の話聞くために研修に参加されている方も多いと思う。  
公立の保育施設は、県や市の方針に従った取り組みをしている(例えば、県が安全と認めたので、福島県産の食品を用いる、など)。一方、認可外の保育施設は、県や市の方針を基に組み立てているが、保護者の方の要望に沿った独自の対応をすることも多い。

#### 研修の活用について

- あすなる保育園のように、外部の方と協力関係を持てるとありがたい、という話を参加者同士でしていた。当園は、専門家と良い協力関係が築けているので、助かっている。何か疑問点があると専門家に相談して、回答をいただいたり、他の先生を紹介してもらったりしている。

#### 4) まとめ

フォローアップ研修会について、実施の状況の観察と分析、事後アンケートの分析、参加者に対する事後インタビュー調査を実施し、その有効性を評価した。要点をまとめると、研修会の「事前課題の解説」について、講師間での話し合いに終始してしまい、参加者が置き去りになってしまったことが指摘されている。また、「事前課題の解説」に多くの時間を取られ、その後の「グループワーク」の時間があまりとれなかったことについて、参加者同士の情報交換を期待していたという意見も挙げられた。グループワークを期待していた参加者は多い。参加者同士の情報交換もさることながら、講師と直接話せることが良いポイントであるようだ。このグループワークはもっと時間を取って欲しいとの要望が挙げられた。

参加者の内容に関する大きな要望は「実際の活動に役に立つこと」を知りたかった、ということである。保育所の実際の活動や、保護者に対して、どのように対応していけばよいのかについて、ケーススタディを具体的に知りたいという意見が聞かれる。そのような意味でも、グループワークの時間が減ってしまったことは、評価を低くしてしまうことにつながってしまった。

フォローアップ研修会を通じて、参加者自身の今後の活動をより発展させるように意思表示をしている意見も見られ、研修会が参加者にとって有用なものであったとすることができる。